

令和3年度高知県環境審議会総合部会

日時：令和3年7月14日（水）9：30～10：50

場所：本庁正庁ホール

出席者委員：一色部会長、長門副部会長、今西委員、常川委員、横川委員

事務局：林業振興・環境部部長、林業振興・環境部副部長、環境計画推進課、その他関係課

1 開会

2 林業振興・環境部部長あいさつ

3 会議録署名委員の指名

今西委員、横川委員を会議録署名委員として指名

4 議題

高知県環境基本計画第五次計画の令和3年度事業計画について

資料1の1～4ページ（戦略1、2）について、事務局から説明を行った。

一色部会長

それでは、ご意見ご質問がございましたらお願いします。

常川委員

いくつかまとめて質問させていただきます。

まず、整理番号2の現在の主な課題に、市町村の支援ということを書いていますが、この支援とはどういうことを想定されているか補足をお願いいたします。

それから整理番号12、他県事例の収集ということですが、見通しとしてどのような見通しがあるのか補足をお願いいたします。

それから整理番号18、19の現在の主な課題に記述がありませんが、この取組が非常に重要な取組になると思われますので、ここの記述が入れてもらえるようでしたら記述するようにご検討をお願いいたします。

事務局（環境計画推進課）

整理番号2の市町村の支援についての補足をさせていただきます。近年、自治体新電力を起こしたいという希望を持つ自治体が出始めています。自治体新電力を作るにあたってどんなことを検討したらいいのかを専門家に聞いてみたいといった希望がございますので、希望する市町村に対し、アドバイザーを派遣する経費を計上をしています。電源を持ちたいという自治体もありますので、そうした自治体につきましては、主に小水力になっていくんですけども、可能性調査という適地の調査等に対する補助を公営企業局の方で計上しています。

事務局（林業環境政策課）

整理番号12番について、環境先進企業と協働した森づくりを行ってる事例が他県にもい

くつかあります。特に徳島県が植栽も含めた吸収証書を発行しておりますので、そういった制度について徳島県に調査に行って具体的な内容も教えていただいてそれを参考にして作成したいと考えております。

事務局（河川課）

整理番号 18 番のリバーボランティアによる清掃活動の支援の課題については、構成員の高齢化により人数が減少傾向にあるということは聞いております。ボランティア活動というところもあり、なかなか困難なところはあるかと思いますが、新たに参加していただける方を集めるような仕組み作りが必要になってくると思っております。そういうところが課題と考えております。

常川委員

もし可能であれば、その課題の部分の加筆をお願いします。

初めの市町村の支援という部分について、別の県で市町村にヒアリングをする機会があったんですが、「職員が足りない」「ノウハウがない」というところで、取組への着手が出来にくい市町村もあるように聞きました。おそらく高知県も同じ状況のところがあると思いますので、ニーズ調査をすると細かい支援ができるような体制を検討すると脱炭素の方に県全体で取組が進むきっかけになるんじゃないかと思っておりますので、初期の段階にそういった取組を検討いただければと思います。四国経済産業局が自治体への支援をされている事例も拝見しておりますので、ご相談すればいいんじゃないかと思っております。

長門副部長

整理番号 1 番に「県民や事業者が率先して取り組み、広がっていくような動きが不十分」ということが書かれていますけども、何を基にどの程度不十分だと認識してるのかが分からなかったんですが、不十分っていう一言じゃなくて、具体的にとらえていかないと、何をどうアクションを起こしていくかが、少し曖昧になるような気がします。計画を立てる時には、不十分の度合いをどう認識して、それを今年度どこまでするかといった具体的なイメージを持って計画を立てるようにしたほうがいいんじゃないかと思っております。個々の目標は、県民世論調査における回答率で、地球温暖化対策を何もしていない人の割合が目標の指標として出ています。目標としてはこうなんですけどその現状の捉え方がこれ以外にもあって、これ以外のことも考えながら不十分だと考えているんじゃないかと思っております。どういうことを根拠にして、どの程度不十分と認識してるのかをどう把握されてるか教えてください。

事務局（環境計画推進課）

直近の県民世論調査でいきますと、令和元年度と平成 28 年度に実施しています。地球温暖化対策実行計画の見直しのタイミングでそれぞれ 2 回やっており、大体 2 年間ぐらいの動向の変化を見ているところがございます。この 2 年間を見ますと「テレビをこまめに消す」「使っていない電気をこまめに消す」「冷蔵庫に物を詰めまない」などの気軽にできる温暖化対策の行動というのは年々数値としてはやってる人が多くなってきています。そういっ

た意味では取組は広がってきていると思います。その次のステップとして「移動の手段としてのマイカーをなるべく燃費のいい車に買い替える」「太陽光発電を導入する」といったことになるのと経費がかかることとなります。そちらのほうにつきましては、数値が伸び悩んでいるというのが1つございます。これから、カーボンニュートラルを進めていく上では、法人の方に経費を支出していただけるか分からないような部分にも食い込んでいく必要がございいますが、そうした部分につきましては取組が十分でないという意味で不十分という書き方をさせていただいております。

今アクションプランの策定を進めておりますので、具体的にどんなことができるかなど、ニーズ調査というの、アクションプランの策定の中で検討して参りたいと考えております。

事務局（林業振興・環境部部長）

補足いたしますと2030年、2050年を見たときに動きを加速する必要があるという意味で、ここは書きぶりとして、広げていく必要があるというようなニュアンスに書き換えるとか或いは、こんな書きぶりでもニュアンスはそういうものだということでご理解いただけるのであればそういう形にしておきます。

長門副部長

CO2 吸収量の見える化と書いてありますが、不十分な度合いも、県民の人がまだこのくらい改善の余地があるということが見えるようにしてもらおうと、どの程度これから頑張らなきゃいけないかのイメージが分かると思うので、こういうところもその中の何かの指標の見える化をしていただければ、県民にとって分かりやすくなるんじゃないかなと思います。

事務局（林業振興・環境部部長）

この不十分か十分か早いか遅いかのモニタリング指標的なものがあれば、PDCAがしっかりまわせるというご指摘だと思いますので、検討させていただきます。

一色部会長

関連しまして、計画の中に普及啓発のことがいくつも出てくるんですけども、その場合、「こうしましょう」「ああしましょう」ということだけではなかなか影響は出ません。現状の見える化が非常に重要で、現状こうなってますよということに問題意識を持ってもらおうと、どうしようかという行動が生まれるので、そういう意味で普及啓発の方法というのはかなり工夫をしていただく必要があるんじゃないかと思います。

特に計画の内容を見ると、県が主導で実施するものに関しては比較的具体的なイメージが湧きやすいんですが、民間にお願いしてやってもらうとか、県民の協力を得るところに関しては何か支援を行うとか、割と抽象的で何をやっていくのか分かりにくい内容になっているものが多いので、特に支援に関しては計画のところにもう少しどういった支援をするのかというのを書き込んでいただいたほうがいいんじゃないかと思います。例えば、整

理番号 18 番の支援の内容として消耗品の配布や保険の加入という具体的なことが書いてあります。なるほどそういう支援なんだということがよく分かるんですけども、それ以外の部分を見ると、何をするのが分からないし、どうするのかということは何も書いてない部分があります。県庁の方はすぐ分かるかもしれませんが、我々委員にとってはこれだけでは何をするのは全く分からないので、計画の説明の仕方としてもう少し、県が主体でやるんじゃなくて民間にやってもらう協力してもらうというものに関しては、県としてそれをどういうふうに伝えるのかということを経営の中に具体的に書き込んでいただいたほうがいいんじゃないかと思います。この答えは、いりません。要望ですので、よろしくお願い致します。

議事進行の都合で、ここで意見交換を打ち切りたいと思います。

それでは、戦略 3 から 5 に関する説明をお願いします。

高知県環境基本計画第五次計画の令和 3 年度事業計画について

資料 1 の 5 ～ 12 ページ (戦略 3、4、5)、及び資料 2 について、事務局から説明を行った。

一色部会長

ただいまの説明に対しまして、ご意見あるいはご質問がありましたらお願いします。

常川委員

ダイジェスト版の表紙について、「アユ踊る清流」の横に読点は計画には入ってるんですけど、ダイジェスト版にはないので直しておいたほうがいいかなと感じました。

資料 1 の整理番号 54、58 に、新型コロナウイルスの影響で、いろんな機会が減ってきていることが課題として書かれています。今、ウィズコロナ、アフターコロナに向けてどういう取組をするのかということに検討がシフトしていますので、この出来ていない、出来ないということではなくて、ここから次どうするかというところに歩を進めてもらいたいなと思います。

あと 1 つ質問です。整理番号 28 のところに石鎚山系の保護対策と書かれていますが愛媛県とかと情報交換して、連携した取組ができるような予定になっているのでしょうか。

事務局 (自然共生課)

まず、第五次計画の策定にあたりましては、大変ご尽力いただきまして、自己満足かもしれませんが、高知県らしいすごくいい計画になったと思っております。本当に感謝しております。ありがとうございました。

ただいまの質問なんですけれども、石鎚山系のシカの対策につきましては三嶺の二の舞にならないように先手先手を打ってシカの対策を進めるということでこれは、県の鳥獣対策課、市町村、専門家の方に協力いただきながら保護指針を策定をしております。シカの移動範囲に県境は関係ないので、愛媛県とも協力し、連携しながら具体的な対策について検討しております。

一色部会長

ダイジェスト版の印象としてコントラストが薄くて、文字が小さいなという印象です。学習用に使うという話だったんですけども、戦略の1、2、3については、基本的に読む人にこうしましょうという呼びかけになってるんですが、4と5の一部に関しては表現が変わっていて、こういうことをしますっていう話になっていて不統一かなという気がします。やはり学習用として使うのであればこうしましょうとか、こうするといいですよとかいう形で統一したほうがいいと思います。

もう1つは、単に見て読んでるだけでは頭に入りません。こうしましょうという呼びかけをしているものについては、チェック欄を設けるとかして、分かりましたとかすでにやっていますといった形で書く欄を作ると活用の仕方がずいぶん変わってくると思います。少しそういう意味で、どういう使い方をするのかという観点からの工夫をもう少ししていたら、もっといいものになるんじゃないかというふうに思います。

事務局（環境計画推進課）

ダイジェスト版の活用方法のイメージとしましては、環境学習が始まる前にまずダイジェスト版を見ていただいて、戦略1から5までで高知県としてはこういうことをやっていますよということを学ぶ。イントロダクション的にこれを活用していただくというのが1つと、最後のページに、戦略ごとに自分がどれくらいやっているかのチェックシートを設けていますので、チェックしていただいて今どんなことができているかを把握していただくような形での使い方をイメージしています。

横川委員

誰に支援をするのかという質問が出たことと現在の主な課題をもう少し具体的にという部分が後半の話だと思うんです。この第五次計画で今回結構充実したのは、この計画を実現するために各主体がどういう役割を果たすかということをきちんと整理していただいた。これを踏まえて課題に誰がどう取り組んでいくのかということ意識してお書きになるともう少し県民とか事業者とか各団体が動きやすくなる。進捗管理シートを書くときに、この計画の主体の役割のところ参考にならないとしたら、全く議論不足だということなんですけど、せっかく書いたものですから生かして、事業者が動かざるを得ないようにみんなで学んでいくっていうようなことをテーマにして課題をつくっていくともう少し正確になるかなというふうに思いました。すごく難しく注文ですが。

事務局（環境計画推進課）

各主体ごとの課題をできる限り記載するという話になると思います。検討させていただきたいと思います。

長門副部会長

ダイジェスト版のことで細かいことになるかもしれませんが3ページ以降、そのページ

は何について書かれているのかということが一目見たときに分かりづらい。1番上に例えば3ページであれば、「施策の展開にあたっての考え方」と書いてあるんですが、もしこれがこのページ全体の見出しであれば、もう少し大きな字で書かないと、開いたときにそれぞれのページが何について書いてるのが見て分かりづらいなと思ったので、見出しはもう少し大きく目立つように書いたほうがいいんじゃないかなというふうに思いました。

計画の94ページに普及啓発というのがあるんですが、これは個人的にはすごく大事だと思ってまして、(1)から(6)まであって、具体的な事業計画は、戦略のいろんなところに入ってるんですけども、年度の振り返りとかまとめをする段階では個別の事業計画の結果とは別に、この94ページにある普及啓発で(1)から(6)まで、どんなことができたのかっていうのをまとめて示していただければというふうに思います。すごくこの括りが分かりやすいので、これがないとそれぞれ戦略の中にいろいろちりばめられていて、どんな普及啓発活動がされたかが一目で見づらいので、各戦略ごとの事業計画と別に普及啓発はこれぐらいできましたというのが一目で分かるような取りまとめをお願いできればというふうに思います。

事務局（環境計画推進課）

2月の環境審議会の際に、進捗管理シートを出させていただくんですけども、そのときに94ページの項目に沿った普及啓発だけまとめたような表を分かりやすくまとめるように検討させていただきたいと思います。

常川委員

ダイジェスト版について、1番後ろのチェックシートの戦略5の2つ目に、推進員または戦略リーダーであるという項目がありますが、なかなかそんな人はいないと思いますので、そういう人から話を聞いたことがあるといった形に変えると、みんなが推進員さんに声をかけようとかリーダーさんの話を聞いてみようみたいなとこに繋がる可能性があるので少し文面を変えたらいいんじゃないかなと思います。

事務局（環境計画推進課）

ご意見ありがとうございます。表現を変えさせていただきます。先ほどいただきました見出しの大きさについても対応させていただきたいと思います。

一色部会長

他にございませんか。

ないようでしたら戦略3から5までと資料2につきまして意見交換を終了させていただきます。会議時間は、まだ若干ございますけれども、本日の環境基本計画に係る意見交換につきましてはこれで終了させていただきます。様々な意見が出されましたけれども本日の意見を踏まえて計画の実施に取り組んでいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは最後に会議次第の5のその他に進みたいと思います。事務局から2050年度カー

ボンニュートラルの実現に向けた取組についての報告があるのでよろしくお願いいたします。

5 その他

2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組について

資料3について、事務局から説明を行った。

一色部会長

時間の関係もありますし、この取組はこの会で議論するテーマではありませんので、先ほどの環境基本計画の内容と関わりのあることについてのみご意見ご質問がありましたら、よろしくお願いいたします。

私1点だけなんですけれども、資料3に2013年度比で、2030年度までの温室効果ガスの排出量の削減目標が29%以上とあってるんですが一方、先ほどいただいた環境基本計画の資料1の整理番号1番では目標としてR12、つまり2030年に15%以上削減とあっていて、数字が一致してないんですけども、これはどういうふうに考えたらいいですか。

事務局（環境計画推進課）

CO₂排出量を算定するときに電気のCO₂排出係数を使うんですけども、15%以上と書いておられますのは電気のCO₂排出係数を基準年の2013年度で固定したままで2030年まで頑張ったらどれぐらいCO₂が減るかっていうのが15%以上という目標になっております。もう1つは政府が46%削減することを発表した世間一般で言われますところがこの29%以上になります。本県だけのオリジナルみたいな感じになるんですけど、要は再エネの導入等を除いて、削減努力だけでどこまでCO₂を削減出来たかというのを見ましょうというのが15%以上という、2つ目標を持っておりますのでその関係上、数字が異なっているというところでございます。

一色部会長

分かりました。でもそれは、やはり資料を見て分かるように注釈をつけるなりしていただいたほうがいいと思います。

他にございませんか。ないようでしたら以上をもちまして、本日の環境審議会総合部会の会議を終了したいと思います。

それでは進行を事務局に渡します。